

D 氏邸訪問記(2016.5.5)

1. 始めに

D 氏邸訪問は昨年のゴールデンウィーク以来です。トランス、フォノイコ、その他アクセサリを持参し、D 氏邸のシステムで聴かせていただきました。

2. 試聴の経過

恒例のバーベキューをいただいた後、Jensen Imperial が鎮座するオーディオルームに移りました。D 氏邸のシステムは[前回の訪問記](#)を参照していただくとして、その後大きな変更はないそうです。



最初に、Studer725 のアナログ出力と EMT981 と DAC-1 の組みあわせでジャズの CD を聴かせていただきましたが、前者がやや色彩感が濃く、後者がすっきりと細かい音を描き分けているように感じました。D 氏は交代に聴くくらいの割合だということでしたが、一般のジャズ喫茶やショップのデモなどで聴く、ジャズオーディオの音と違って品格があるように感じました。間にシャブリエのピアノ曲やソプラノの歌曲も聴かせていただきましたが、品よく落ち着いて聴ける印象でした。

次にアナログに移り、ノッチングガムのプレイヤーにスタントンのカートリッジを装着した状態で真空管式のフォノアンプの音を聴かせていただきましたが、同席の M 谷氏が感嘆されたように、やはりアナログの音が良いと言われた感想そのままに MM カートリッジで聴くジャズの良さを出していました。ここでフォノイコを、持参した iPhono に替えたところ、レンジが広がったように感じましたが、iPhono の電源を持

参したタップリベラメンテから取り、iPhono の電源ケーブルにはフィルタライザーを付与しているのもそういった効果も含まれていると思います。さらに iPhono の DC 電源ケーブルに iPurifier DC を加えると透明感が向上し、自宅での結果が再現できました。初期の米国のジャズ盤はコロンビアカーブの場合が多いようですが、RIAA とコロンビアカーブを切り替えてみますと、盤によっては後者の方がバランスが良くしっくり行くことがあることに一同納得していただきました。

ここでカートリッジを持参した Ortofon コントラプンクト A に替え、トランスを持参した Northern Electric と組み合わせてみましたが、MC 独特の音の張りや Ortofon らしい低域の膨らみを感じられました。さらに持参した ZYX R100-EX に替えますと今度はジャズには大人しすぎて物足りない印象でした。

それではと D 氏が取り出したのは、ワルター／コロンビア饗のマーラーの 1 番で、ZYX R100-EX と Northern Electric との組み合わせで、弦も実に美しくティンパニやコントラバスも豊かに響いて、Jensen Imperial が水を得たように真価を発揮したように感じました。さらに、トランスを替えてみようということで Western と UTC のトランスも順次聴いていきましたが、Western は明るく明晰に、UTC は Northern Electric と同じような音で、形状が非常によく似ていることから、元は同じではないかというコメントもでました。最後にフルトベングラー／ウイーンフィルの定番ものを聴かせていただきましたが、Decca カーブの設定で、ウイーンフィルの弦が美しく鳴ってくれました。

なお、ガラード 301 に装着した Ortofon SPU A も聴きたかったのですが、アームが不調で見送りとなり、これは是非次回に聴かせてほしいと思っております。



3. まとめ

現状でジャズは品良くなっていましたし、カートリッジは MM、MC それぞれの個性が良く分かり、iPhono のイコライザーカーブの切り替えや iPurifier DC の効果も確認できました。何よりもカートリッジやトランスの組み合わせを替えていくと、クラシックにも良く対応し、むしろクラシックの方がいいのではないかと、全盛期のポスト

ンやフィラデルフィアなど **Jensen Imperial** と同時代の米国のオケの盤がよくマッチするのではないかと感じました。

以上